

## Q & A

### Q1：実際に何をすればいいの？

これまでどおりの清掃を行いましょう。毎日の清掃は、飼料給与前にえさ箱や飼槽をきれいにする、ウォーターカップや飲水槽のごみを取り除くことで十分です。

掃き掃除のときは、できるだけほこりを巻き上げないように、ゆっくり静かに行いましょう。牛舎内をきれいに保つことは、放射性物質汚染対策だけでなく、疾病対策など衛生管理にも効果があります。

### Q2：牛舎内で牛は土を食べることはあるの？

飼料に土が混ざっていると一緒に摂取してしまいます。自給飼料の収穫時に土が混入しないように気をつけます。

牛の首が届く範囲の雑草は、放射性セシウム濃度が高く、土と一緒に食べる可能性もあるので、牛が食べることをないように除草は必要です。

しかし、裸地化すると牛舎内に土ほこりが入り込む原因にもなりますので、防草シートの設置などが有効です。

### Q3：周辺の木は切った方がいい？

牛舎周辺の樹木は、夏の日照、高温や、強風防止のために植えられたものが多く、伐採すると管理しにくくなることもあります。残すときは、枝を整理し(特に下枝)、せん定を行うことで落ち葉の量を調整できます。

## 再開後チェックリスト

箇所	内容	チェック	ポイント
畜舎周辺	1 空間線量率の高い場所はありません。	<input type="checkbox"/>	定期的に定点測定しましょう。
隔離保管物	2 適正に管理されています。	<input type="checkbox"/>	目印、破損・数量点検
畜舎 搾乳舎 飼料庫 農機具庫 など	3 空間線量率の高い場所はありません。	<input type="checkbox"/>	定期的に定点測定しましょう。
	4 雨水の侵入箇所ありません。	<input type="checkbox"/>	天井、雨どい、流入、吹き込み
	5 飼槽	<input type="checkbox"/>	雨水、落ち葉、野生動物
	6 水槽・飲水器	<input type="checkbox"/>	
	7 清潔です。	床	<input type="checkbox"/>
8 天井・屋根裏	<input type="checkbox"/>	クモの巣、ほこり、野生動物	
9 梁、柱	<input type="checkbox"/>		
水	10 10Bq/kg以下です。	<input type="checkbox"/>	・定期的に測定
飼料	11 100Bq/kg 購入飼料	<input type="checkbox"/>	しましょう。
	12 以下です。 自給飼料	<input type="checkbox"/>	・測定日、測定値を記録しましょう。
敷料	13 稲わらの場合は100Bq/kg以下です。 おがくず等は400Bq/kgです。	<input type="checkbox"/>	・購入先を記録しましょう。
確認日	〇〇年 〇〇月 〇〇日		

定期的に確認しましょう。

## 営農再開に向けた牛舎清掃のポイント

畜産

シリーズ **2**

## 牛舎維持管理編



詳しいマニュアル  
「営農再開に向けた牛舎・パドック  
清掃のポイント」  
はこちらから

営農再開 清掃 検索



### 問い合わせ先



農研機構畜産研究部門

Tel: 029-838-8249



福島県農業総合センター畜産研究所

Tel: 024-593-1221

## 維持管理のポイント

### 1. リスクの把握

- ・汚染を起こす可能性を検討
- ・ハザードマップの作成

### 2. リスクの除去・管理

- ・汚染物を隔離保管
- ・雑草等の除去
- ・雨もりなど破損の点検
- ・周囲より線量率の高い箇所に目印をつける

### 3. 清掃の継続

- ・外から汚染物を持ち込まない
- ・牛舎をきれいに保つ
- ・牛がなめる場所は特に丁寧に（飼槽、水槽、柵など）

### 4. 確認と記録

- ・チェックリスト
- ・空間線量率の定点測定と記録
- ・給与飼料の記録

## 汚染原因となるもの

### 【牛舎周りの植物】

- 牛舎周辺の雑草や樹木の葉は、放射性セシウムが高い可能性があります。
- 牛の口が届く範囲の植物は除去しましょう。

### 【落ち葉や枝】

- 常緑樹（主にスギ、ヒノキなどの針葉樹）の葉の放射性セシウム濃度は、落葉樹（主にサクラ、クヌギなどの広葉樹）に比べ高い傾向にあります。
- 通常の管理下では、牛は好んで針葉樹を食べることはありませんが、飼料に混入すると一緒に食べてしまうので大量に入らないように注意しましょう。

### 【雨もり、雨水】

- 汚染された土、落ち葉、コケなどを含んでいる場合があります。
- 飼槽、水槽、飼料、敷料が汚染されないようにしましょう。

### 【土や土ほこり】

- 土や土ほこりの放射性セシウムがとても高いおそれがあります。
- これらは家畜の体内に吸収されにくく、飼料の1～10%程度と推定されます。大量に飼料に混入したり、器具を汚染しないようにしましょう。

このリーフレットは農林水産省委託プロジェクト「農地等の放射性物質の除去・低減技術の開発（畜産再開に向けた牧草生産技術等の開発）」の研究成果を元に作成しました。

## ハザードマップ作成例



## 具体的な維持対策

### 周辺環境

- 枝葉、土ほこりの吹き込みがひどい場合は、ネットやカーテンなどの設置も考えましょう。
- 牛が食べられる範囲の雑草は、こまめに除去しましょう。

### 作業機械

- 土砂などを多量に牛舎内に持ち込むことのないように、走行経路を考えましょう。
- ほ場での作業後など、タイヤが汚れているときは、洗浄等で落としましょう。